

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1971200231		
法人名	医療法人聖仁会		
事業所名	グループホームうらら		
所在地	山梨県富士吉田市ときわ台1-1-26		
自己評価作成日	令和 3年 12月 22日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiakensaku.mhlw.go.jp/19/index.php">http://www.kaiakensaku.mhlw.go.jp/19/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和 4年 1月 20日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者様一人一人が自分らしく生活できるように支援しています。日常生活には特に決まった時間はなく利用者様に合った時間でケアをしています。今までは外出で出かけたり、家族会やイベントを開催して家族との時間を作り家族との「絆」を大切にしていたのですがコロナ禍の為受診以外、外出や家族との面会が出来ない状況です。その為、一人一人に合った生活ができるように支援しながらグループ内で出来るイベントを季節の行事ごとに開催してします。また、自粛解除になってからは家族との面会を玄関まで行き、会っています

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

2階建ての建物で、1階にはデイサービス、2階に1ユニットのグループホームが運営され、周囲にはスーパーや商店街も広がり、利便性の高い環境が整っていました。その立地条件を生かし、コロナ禍の中でも警戒レベルの状況を見極めながら、ストレスが溜まらないように、歩行訓練を兼ねた外出支援を積極的に行っていました。また、和室だった部屋を改装して洋間に、トイレの心配が強い入居者がより安心して暮らせるように、現在改装が始まっています。同時にペランダも新たに設置し、介護ベッドの導入予定もあり、日々の関わりの中から「そのひとらしさを尊重したケア」に繋げて、心豊かな人生を送ってもらえるように職員全員で取り組んでいました。自粛生活が解消した際には、家族会開催を予定しており、日々のケアに邁進していました。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20) <b>(※窓越しの面会など距離をとった交流)</b>	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)(※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームうらら**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護保険法を基に「尊厳」「敬愛する心」を重視した理念があり、全職員が理解し、日々の支援の中で心掛けている。新人教育から法人全体の勉強会でも常に継承している。	法人理念を事務所やフロアに掲示して、職員の意識を高め、「敬愛する心」を共有理解して、入居者個々のニーズに沿った取り組みに日々適進していました。特に入浴時間は希望に応じ、個々の過ごしやすい暮らし向きを探求し、サービスの提供に取り組んでいました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域自治会には積極的に入らせて頂いていますがコロナ禍の為盆踊り大会や文化祭が中止になっている為参加出来ていません。職員のみで近くのスーパーで買い物していますが自粛解除してからは利用者様と一緒に出かけようとしている。	夏祭りは地域の方々との交流の場として、浴衣を着て盆踊りや屋台と一緒に楽しんだり、文化祭に参加したりと地域交流も積極的に行っていましたが、コロナ禍の為行事の開催ができませんでした。コロナ感染警戒レベルが下がった際に、近くのスーパーに職員と一緒に外出して買い物を楽しんでいました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見守りネットワークの拠点(委託)されており、地域での支援協力知性をとっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ケアの内容・活動やヒヤリハットの報告をし、今後の課題について意見交換を2ヶ月に1回開催していましたがコロナ禍の為に中止になっており、書面での報告をしている。課題についてはカンファレンスで解決に向けて話し合っている。	市の長寿課職員、ときわ自治会長さんや民生委員、家族代表者等で2か月に1回会議が開催されていましたが、コロナ禍で開催出来ず、定期的にホームの様子や状況を文書で伝えて、今後の会議開催まで繋げる努力をしていました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者が運営推進委員会のメンバーに入っており、情報交換や相談、助言を得ている。気付きや疑問など都度相談しながらアドバイスを頂いたり、ホームの実情や取り組みについても説明している。	先日、市からの立ち入り実地監査を受けた際に、市の職員と久しぶりに会えた入居者は、その再会を喜んだとの事でした。日頃からの関わりで協力体制が整っている様子が伺えました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の禁止マニュアルを作成しており、法人の定期的な会議で全職員への意識啓発を行っている。	昨年、自室で転倒し入院した方が退院した際に、ベッドの柵を2つ使用する(片方壁)事がありました。特に夜間動いたり、下りたりして、再びケガをされては困るとの家族の心配もあり、やむを得ず1か月ほど身体拘束を行っていました。家族の理解を得た上で、慎重な取り組みが行われていました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束の禁止マニュアルの内容を理解して、抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が定期的な外部研修に参加し、個々の利用者様への必要性に応じた際には活用できるように本人、家族、行政担当者や情報共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項を掲示し書面にて十分な説明をし、理解、納得の上で同意を頂いている。		

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームうらら**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価
			ユニット名( )	実践状況
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回の家族会が中止になっている。日々の申し送りやカンファレンスにて必要に応じた適時にも利用者様の業務改善に努めている。	月に1度実施していた家族会はコロナ禍の為実施できませんが、今まで構築した信頼関係で、家族からの要望を聞き取り、面会も1階のデイサービスの1室を借りて短い時間ですが面会を認め、感染レベルが低い時期に面会されたご家族には外食を認めるなど、臨機応変な対応がとられていました。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回、全職員に対し、アンケートをとり管理者との面接を行っている。月に1回のカンファレンスでも意見や提案を聞く機会を設け、運営業務に反映出来るようにしている。毎月行う、営業会議や業務改善委員会にて各事業所の意見や提案、問題点を掲示し業務に反映させている。	年に2回管理者との面談も実施され、カンファレンス時にも職員の意見や提案を大切に聞き取り、中途で入った新人職員への配慮もしながら、常に職員の動向を見極めて適切な対応に取り組んでいました。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の施設長面接の実施で努力や実績の評価や業務への要望の聞き取り等を行っている。また、法人全体での勉強会やデイの行事等の開催へ一緒に参加で向上心を失わないように明るく楽しく働けるように努めている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修について長期的な計画にて、全職員が平等に研修が受けられるよう配慮しているがコロナ禍の為参加出来ない。内部研修では、法人全体で研修委員会を設置し研修を行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者がグループホーム協会へ加入継続し、積極的にリモートですが研修に参加したり、市町村、他事業所主催の研修などに参加するなど交流を図りながら、サービスの質の向上に努めている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学者や利用申し込みに来る際には、ご家族が依頼されることが多い。ご家族を通して、ご本人の事を伺うことが多く、入居前にはご本人にホームを見学して頂くように支援している。ご本人が来所された時には安心感が得られるように努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学をして頂き、利用に向けての不安や要望を聞いていくようにしている。ご家族との対話を大切にし、信頼関係が築けるようにし、どのように対応していくか職員間でも十分に話し合いを行う。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報を他の関係機関やご本人やご家族より聞き取り検討し、グループホームの特徴を理解して頂き、必要とされるサービスについて見極めていき、入居を急ぐ時は他のサービスや事業所も紹介している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームの特徴を活かして、家事を中心にご本人と職員が共に作業を行うようにして、明るく楽しく過ごせるようコミュニケーションを密にとっている。	

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームうらら**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の日常や変化等については、密に情報交換が出来るように心掛けている。コロナ禍の為、外泊はないですが受診時の外出を家族とまた、自粛解除になってからは県外の家族との面会に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係も支援していましたが、コロナ禍の為時々家族との面会のみになっている。	馴染みの所への外出もコロナ禍で実施できない中、最近では娘さんの所に帰りたいという利用者の要望を聞き入れ、久しぶりに娘さんと馴染みの洋服店を訪れ、好きな色の洋服を購入し、喜びと共にストレスも発散できたケースがあったそうです。今後自粛生活解消の折には、家族会の開催や積極的な外出支援を行う予定となっていました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様々の性格を把握して職員が間に入りながら楽しく会話したり、喧嘩したり、支え合い生活できるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡を取り合うことは殆どなくなってしまうが、町で会った時は近況等を話したりしている。また、退去後は情報提供や家族の精神的なフォローをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どのような暮らしが心地よいのか、必要なか、情報を共有し職員間でしっかりと話し合い個別援助につなげていく。言葉の断片や表情からも思いをくみ取って行くように支援している。	新規に入居された方については、以前の生活情報をしっかり聞き取ることで、新聞やラジオを用意し、以前の暮らしに配慮した対応を行っていました。その際に、金銭面を気にして遠慮しがちなところもくみ取り、丁寧な説明を重ねることで、その後の支援に繋がっていました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の情報他に普段何気ない会話からも、馴染みの暮らしが見えてくる事もある。これまでの暮らしを元にグループホームで暮らして頂くか定期的なカンファレンス等で検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的及び必要に応じてカンファレンスを開き、利用者様の日常について意見交換を行い職員全員で把握出来るようにカンファレンスノートを活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回、職員全員でケアカンファレンスを開催し、利用者担当を中心に意見やアイデアなどを共有し、問題点を話し合い、計画担当者が介護計画を作成している。	毎月の会議で利用者個々の情報を交換して、モニタリングを定期的に行う事で、介護計画書に挙げた内容を日々実践し、より落ち着いた、安心できる生活の提供に取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別記録に記入している。 また、必要に応じてカンファレンスを開催し、個別記録を元に必要なケアの見直しを行っている。気づきやメモ等使用し利用者様の様子を申し送りノート等で情報共有している。		

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームうらら**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人とご家族の希望を取り入れ、併設しているデイサービスに時々コロナ感染予防対策を徹底した上で参加している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内のスーパーに買い物に行ったり、季節に応じて好みの洋服を買いに行ったり、また、時には地域ボランティアに来て貰い利用者様に楽しんでもらっていました(和太鼓演奏、大正琴、コーラス等) コロナ禍の為実施出来ていない。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族の希望に応じた受診が行えるように配慮している。 また、必要時には記録を用意し、医師と情報交換に努めている。	入居者でかかりつけ医が遠方の場合には近くの病院に変更したり、ご家族の付き添いをお願いし、コロナ禍の中、先に予約をとってから連れて行くなど短時間での通院に協力してもらい、希望のかかりつけ医受診に努めていました。 ご家族が県外の入居者には、施設の職員が同行して受診しておりました。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々、併設のデイサービスの看護師と法人内の看護師にその都度、専門的視点から助言、対応、指導を貰っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関に情報提供を行い、調印関係者や家族共に状況経過を確認している。また、病院地域連携室や看護師とも連絡を取り、退院するまでの計画書を医師同意のカンファレンスをしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約時、重度化や終末期について事業所としての方針を説明し、確認を行っている。重度化した場合は早い段階から主治医や家族、職員間においても方針を共有し、病院転院や他施設も含めて支援に取り組んでいる。	終末期や重症化時には、早くから家族と情報交換をする中で、ご本人、ご家族の希望を聞き取り、希望に沿った対応に努めていました。一階のデイサービスセンター職員の応援もあり、状態変化に伴い、その都度情報を共有することで、手厚いケア体制を整えていました。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人研修において、全職員、普通救命講習を開催している。また、緊急時対応マニュアルを参照し、落ち着いて対応できるように整備している。 24時間看護師に連絡し指示をもらえる体制は整っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て日中夜間を想定して避難訓練を行っている。同一法人内においても協力体制が出来ている。 地域については運営推進委員メンバーの協力を得て自主防災に参加している。	以前フライパンを焦がしてしまった事があり、防災訓練に真剣に取り組んでおり、来月は新人職員の為に、夜間体制での避難訓練を計画していました。12月の勉強会では、富士山の噴火を想定した、リモート研修を河川湖災害課より受けて「正しく、おそれるな」の言葉通り、指示通りの行動を直ぐにとる事で、多くの命を守る結果となるということを学んでいました。		

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームうらら**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	これまでの生活歴等の情報から一人一人に合わせた言葉かけをしている。人格の尊厳は理念にも合わせて当たり前のごこととして考え理解している。	新規に入居された方には、ケアマネや以前利用していた一階のデイサービスからの情報を参考にし、本人から昔の話を繰り返し聞き取ることで、徐々に信頼関係を築くなど、常にご本人を尊重した対応が実践されていました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々な場面で、ご本人が意思決定できるよう、言葉かけに注意しご本人たちのお言葉を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしを優先し、ペースを大事に支援するように努力しているが、ご本人にペースで生活できている方もいる。また、介助中心な利用者様もいる為、ご家族の希望も取り入れ支援している場合もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ禍の為、病院受診以外は外出できていないが受診や日常生活においてご本人がおしゃれを楽しめる支援は行っている。また、ご本人に合った衣類を用意して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園で取れる季節に応じた食材の利用や利用者様の好みに合わせた食事作り心掛けています。日常生活の中でも出来る範囲で下ごしらえや片づけ等にも参加して頂き、役割を持って生活できるように支援している。	昼食は1階のデイサービスセンターの厨房で作られた食事で、朝と夕食は、献立担当の職員が献立表を作成し、夜勤者が翌朝の朝食作りを、日勤者が夕食作りを行っていました。利用者の皆さんそれぞれが、下ごしらえ、盛り付け、片付けといった得意の分野をお手伝いして、職員と一緒に食事の時間を楽しんでいました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の活動の程度に応じ摂取量は調整している。また、便秘や下痢、風邪等に応じ食事の内容や形態を変えている。水分量はきちんと確保できるよう心掛け、利用者様の施行に合わせている。記録や申し送りをこまめにし、健康状態を管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事毎の歯磨きやうがいの支援は行い、同法人内の歯科医に不定期に指導してもらい、個々にあった口腔ケアを行って職員への指導も行い、衛生保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	重度化している利用者様はおむつやパットを使用しているが排泄のリズムを確保している。また、個々の利用者様の時間に合ったトイレ誘導をして失敗がないように支援している。	布のパンツ使用の方もいましたが、かぶれが生じてしまい、衛生面を考えてリハパンに切り替えた例もありました。今は殆どの方がリハパンを使用して、プライドを傷つけないような声掛けに配慮して、トイレでの排泄に導いていました。冬期は室温温度を25度に設定し温かくし、夏にはリハパンから布パンツに替えるなど、色々と工夫した取り組みを実践していました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて、定期的に排便できるか確認している。また、適度な運動を行い、できるだけ食事や水分などでコントロールできるように心掛けている。		

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームうらら**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2~3回を曜日には固定しているが利用して頂いている。また、希望の時間に沿うように調整しながら一人ずつゆっくりと利用してもらっている。	入浴時間は個々の希望を聞き取り、夕食後に入っていた方もいましたが、今では皆さんが夕食前に入るようになり、特に寒い時期は着ているものを脱ぐという行為をためらうようになるので、一緒に手伝うからとの声掛けを繰り返しながら、週2回以上入って頂けるように支援していました。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間にとらわれず、利用様が自宅で生活していた習慣リズムで過ごして頂けるように支援している。利用者様と良く話をする事で夜間の安眠の確保が出来るように日中の活動への取り組みをしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確実な服薬が出来るように担当者がご家族、主治医、薬剤師等と連携を取り管理に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の散歩や買い物等の外出はコロナ禍の為、出来てはいないがデイの季節行事に参加して気分転換して頂けるように支援している。洗濯物の干し、たたみや食器拭き等個々の残存機能を活かし日々の役割をもった生活を送って頂けるように取り組んでいる。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、病院受診以外は外出できていないが自肅解除になってからは近くのスーパーや洋服を見に職員と外出するようになっていく。	コロナ禍で通院以外は外出できないので、警戒レベルが下がった際は、ご家族と出かけて馴染みの店で買い物を楽しんだり、職員と一緒に近くのスーパーに向いて買い物を楽しむなど、ストレス解消を優先に考えた対応と、歩行訓練にも繋がるといったデータから、職員全体で積極的に取り組んでいました。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の場面では個々の能力に応じ支払いをお願いすることもある。日々の管理は職員が行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については何時でも自由に利用できるように支援している。年賀状などご家族あてのものについてはできるだけご本人に書いて頂けるように支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その時々々の雰囲気に合わせて曲をかけたり、季節を感じていただけるように皆で歌を歌ったり、季節の飾りつけを一緒に行っている。ご本人の生活歴を探し馴染みや使い勝手等を工夫している。職員同士意見交換をしながら試行錯誤している。	ホーム内にバックミュージックを流し、季節や個々の好みに合わせた曲、一緒に歌える歌を流すなど、その時々々に適した曲を選択してホーム内の雰囲気作りに工夫されていました。広々としたリビングは、皆さんと一緒に過ごせる憩いの空間となり、浴室やキッチン、トイレ等の照明も明るくして、使いやすい設備環境を整えていました。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペース内にはソファや和室があり、それぞれ好きな場所で談話したり、一人でゆっくり所やくつろぐスペースは確保している。			

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームうらら**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の縁のものをご家族の協力のもととしている。また、衛生面にも気を配っている。	布団やタンスは馴染みの物を持ち込み、個々の趣味では人形やぬいぐるみ、クラシック音楽を好んで聞く為にステレオ機材を持ち込むなど、それぞれが安心して落ち着ける、居心地の良い部屋作りに取り組んでいました。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア、居室に関しては全面的にバリアフリーで壁にも細かく手すりを設置している。また、常に利用者様と整理整頓を心掛けている。			